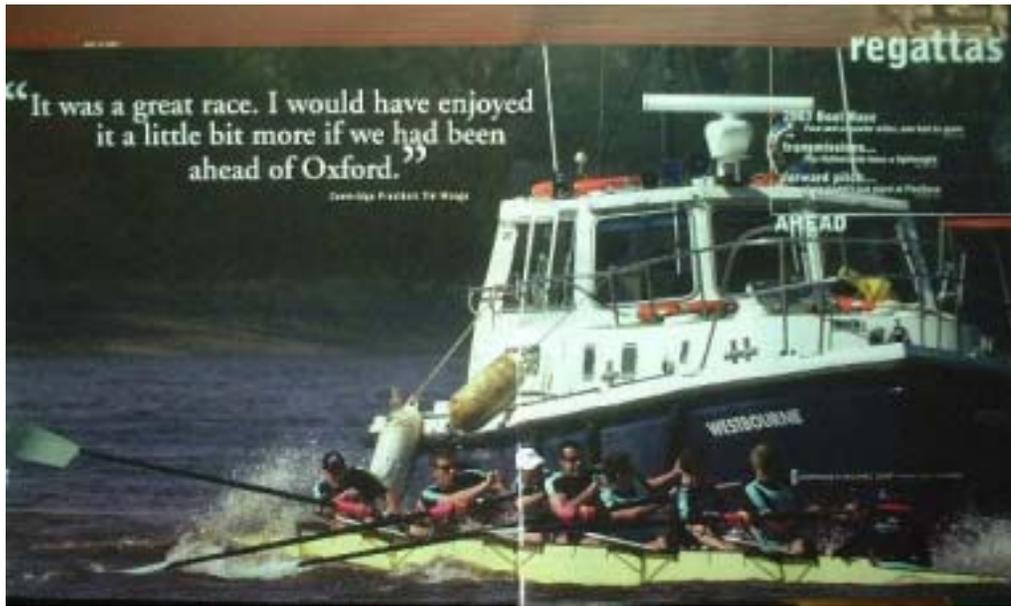


内 容



1. イントロダクション
2. 過去の事故例から学ぶ
3. 安全の心構え
4. 水域の危険・安全情報
5. 気象・水象判断
6. 艇の整備・取扱の重要性
7. 今後の安全対策(計画)

1. イントロダクション



ローイングは 危険なスポーツか？

・世の中には様々なスポーツがあります。それぞれのスポーツ活動で、危険・安全の中身が違います。絶対安全なスポーツなどありません。

・室内やコートの中で行うスポーツと違い、自然の中で行うスポーツであるボートやカヌー、ヨット、登山、ダイビング、スカイスportsなどには自然に触れ合う素晴らしさとともに、自然に対峙していることに伴う独特の危険が存在します。それは、不注意や不真面目さが直接、命にかかわり得る種類の危険です。

・ボートはあぶない？ なぜ、それでも人はオールを手に、水の上に漕ぎ出すのでしょうか？

1.1 安全か危険かは「取り組み方」しだい

- 指導者の適切な指導と選手の真摯な姿勢によって、ローイングの安全が確保でき、重大な危険を確実に回避することができます。
- 自然の中で行なうスポーツ活動を通じて、選手はその生涯を通して発揮できる、高度な危険回避・安全確保の能力を獲得することができます。

あなたは
どちら？

真剣に自然と取り組めば安全
確保 + 高度の機能獲得

真面目に考えずマンネリに流されれば、深刻な危険と隣り合わせ



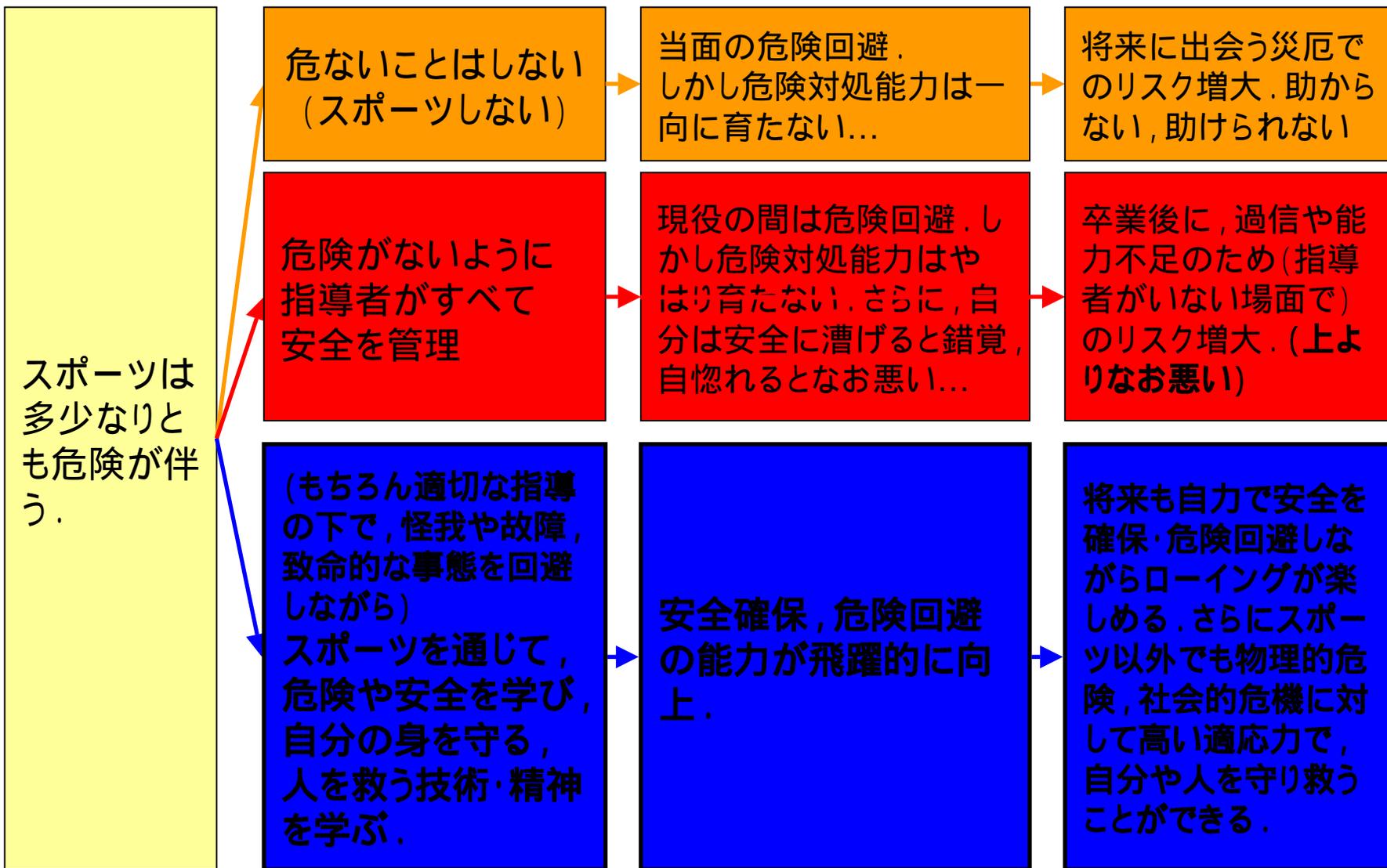
1.2 選手は...

- ・ ローイングにおける「リスク(危険性)」を正しく認識しよう。
- ・ 「リスク」は、正しく認識すれば恐れる必要はない。
- ・ 安全を確保するための「正しい」方法を学ぼう。
- ・ 毎日の活動をそのまま安全訓練と考えよう。経験を通し、意識的に自分の「安全能力」を高めよう。
- ・ その能力を後輩の「安全能力の育成」に発揮しよう。
- ・ その能力は、自分の生涯を通じた「安全能力」につながる。将来、さまざまな場面で、自分や周囲の人の安全確保、危機回避に必ず役立つ。

1.3 指導者は... (後輩を指導する先輩を含む)

- ・ 「選手の安全能力の向上」を、テクニックや体力強化よりも優先しよう。
- ・ 新人の最初の数カ月を、意識や自覚という抽象問題ではなく具体的な行動として、まず「安全に漕げる/トレーニングできる/艇の扱いができるようになる」ことに充てよう。
- ・ それは「回り道」ではなく正攻法であり、2～3カ月かけて安全に漕げる基礎をクルー自身がしっかり身につけることで、その後、安心感のある円滑で確実なテクニック向上や強化が開始できる。
- ・ 安全確保が本当にできているか、水域や活動の中で、一番のリスクは何か、どのようなケースか、今一度再点検しよう。

1.4 スポーツと危険の関係



ローイングは...



- ローイングは外来スポーツの中でも最も歴史あるスポーツです。
- ローイングは英国で誕生したルール・マナーを重んじる誇り高いスポーツです
- ローイングを通じて得られる安全能力は、高度なものです。生涯を通じてあなたの命を守り、また人を助ける能力を獲得できます。
- このスポーツに、自信と高い誇りを持って取り組んでください。またそれに恥じない行動をしましょう。

2. 過去の事故例に学ぶ



41.4.6 四高琵琶湖遭難11名. 昔は大勢が遭難する事例も



86.9.22 三沢高:F1×を助けようと先生が飛び込み溺死



03.6.26 広工大:M2×が沈. しかし早期通報で救助.

- ・ 過去の漕艇事故を概観し, どのようなパターンで事故が発生するかを理解しましょう.
- ・ 事故を学び, 同じ事故を繰り返さないことで, 犠牲者の死が少しでも活かされることとなります.

2.1 日本のボート事故1900～1960年代

発生日	クルー	水域	艇種	乗	性	死	事故発生の原因	死への拡大要因
03-04-02	二高(東北大)	名取川沖	フィックス	8	M	2	荒波への無謀な出艇	
06-03-29	二高(東北大)	北上川沖	フィックス	7	M	1	荒波の海域への無謀な漕行	
07-12-30	東高商(一橋)	利根川	フィックス		M	3	悪天候を無謀な出艇	
10-01-23	逗子開成中	江ノ島	フィックス	12	M	12	悪天候を忠告を無視して出艇, 未熟, 過剰定員	
33-04-01	東京大農学	隅田川	タブペア	2	M	1	船の波による沈	離艇
34-12-28	二高,東北帝大	松島湾	クリンカー エイト	10	M	10	低温を無謀出艇?・艇故障?	低温
40-03-16	和歌山中学	浜の宮	フィックス	8	M	8	悪天候出艇・未熟・過剰乗員	離艇
41-04-06	四高(金沢大)	琵琶湖	フィックス	11	M	11	悪天候出艇・過労・過剰乗員	
61-03-23	京都大	琵琶湖	エイト	9	M	1	横波の回避ミス	
61-04-01	須磨高	明石海峡	KF	6	M	4	悪天候を無謀な出艇・過労	自己転覆 , 離艇
63-07-18	一橋大	荒川	エイト	9	M	1	腹切りによる落水	泳げなかった
64-08-22	京都大	瀬田川	エイト	9	M	1	無灯火で8 + と衝突	リガー突刺
67-03-25	金沢大	河北潟	エイト	9	M	1	悪天候を無謀な出艇	離艇
67-07-02	日大土浦高	霞ヶ浦	KF	7	m F	1	悪天候出艇, 過剰乗員・2艇沈	離艇

2.2 日本のボート事故1970～1985年

発生日	クルー	水域	艇種	乗	性	死	事故発生の原因	死への拡大要因
70-03-01	一橋大	荒川	8+	9	M	2	悪天候, 杭に衝突	離艇, 風上に泳ぐ
71-06-06	京都桃山RC	瀬田川	1x	1	M	1	放流(急流)時出艇, 沈.	低温
71-07-27	日本合成ゴム	霞ヶ浦	1x	1	M	1	(沈)	離艇
72-04-13	三菱銀行	荒川	KP	4	F	1	新人が指示無視, 船の波による沈.	離艇
72-05-06	霞ヶ浦高	霞ヶ浦	KF	7	M	2	悪天候出艇, 新人, 過剰乗員	疲労で離れる
72-08-28	鹿児島大	大隅湖	1x	1	M	1	沈	低温
74-05-11	田名部高	大湊湾	KF	6	M	3	試合へ回漕, 悪天候出艇	転覆させる
74-05-14	日立金属	中海	KF	7	M	1	天候急変, 過剰定員	転覆させる
77-05-29	弘前大	青森湾	KF	7	M	1	天候の急変	離艇
77-07-16	松江高専	宍道湖	KF	5	M	2	悪天候を無謀な出艇	離艇
78-05-29	東京工大	荒川	8+	9	M	1	暴走モーターと衝突	外傷
81-10-19	岡山大	旭川	4+	5	M	1	無灯火, モータと衝突	外傷
82-08-06	立命館大	瀬田川	4+	5	M	1	増水中, 橋脚上流で転回	艇が折れ落水.
83-11-01	静岡大	佐鳴湖	8+	9	M	1	魚(ハクレン)と衝突.	離艇, 低温.
84-08-22	八代高	球磨川	4+,K F	11	M,F	0	放流中の堰に吞まれる.	(1名軽症)
85-12-18	東洋大牛久高	霞ヶ浦	KF	5	M	3	天候の急変	誤指示で離艇

2.3 日本のボート事故1986～2001年

発生日	クルー	水域	艇	乗	性	死	事故発生の原因	死への拡大要因
86-05-24	新潟南高	信濃川	KF	5	F	1	橋脚の上流側で回艇・衝突	艇が折れて沈・離艇
86-09-22	三沢高	小川原湖			M	1	F1×沈, 先生が泳いで救助	先生溺死・生徒は救助
89-03-07	神戸大	新淀川	8+	9	M	3	悪天候を無謀な出艇, 未熟な編成	指示ミスで離艇, 低温
90-06-22	新潟南高	信濃川	-	-	M	1	栈橋からふざけて飛込む	速い流れ, 泳ぎが苦手
90-07-19	田名部高	大湊湾	1x	1	M	1	締忘れ, オールが外れ沈.	泳げなかった
91-04-29	福岡大医	遠賀川	KF	6	M	2	大会撤収, 悪天候下出艇・未熟	離艇, 泳げず.
91-07-09	八代南高	球磨川	1x	1	M	1	沈後の中途半端な救助	離艇
92-08-02	日本大	隅田川	8+	-	M	1	レガッタ優勝飛込～溺水	濁水で発見困難
94-04-14	彦根東高	琵琶湖	KF	8	M F	1	荒天下体験入部・過剰定員, 無断出艇	離艇
95-05-03	津久井高	瀬田川	2x	2	F	1	放流中・ワイヤで沈	堰を越え流下・泳げず.
95-08-06	津幡高	錦海	2x	2	M	1	レース後体調悪化, 救急搬送	帰宿後様態急変, 持病
96-02-09	福岡教大	遠賀川	1x	1	M	2	悪天候下沈, 救命具つけ救助に	低温, 溺水, 通報遅れ
97-08-08	同志社大	瀬田川	4+	1	M	1	橋脚上流での待機, 流され衝突	増水～急流.
01-01-09	香川大	府中湖	1x	1	M	1	新人乗艇・沈・ 僚艇に掴まり帰投	低水温, 疲労で離れる.
01-09-21	網走南丘	茨戸湖	2x	2	F	1	新人戦・アップ中, 突風で転覆	溺水.

2.4 日本のボート事故の概要

- ・ 日本ボート界では、100年の間に44件の死亡事故で98名が命を失いました。最近10年間では、7件で8名です。(レジャーの手漕ぎボートを除く)
- ・ 死亡事故以外にも、多くの事故、インシデント(前事故事象)があります。死亡事故だけでなく、インシデントの分析が重要です。
- ・ 事故には「波浪による遭難型」「水上交通事故型」「ローイング固有の事故(沈や腹切りに関連)」のタイプがあります。歴史的には遭難型が多いのですが、近年では「操艇の未熟さ」に絡む事故が気になります。また、水上バイクなどのマナーの悪いレジャー水上交通によるリスク増加が懸念されます。
- ・ 事故発生防止には、「天候予測、クルー編成、整備・準備、操艇技術」の4条件が必須です。
- ・ またダメージ拡大防止には、「艇から離れない、泳げること(+浮力確保)、低温対策、パニック対策(あわてない)」の4条件が重要です。

追加： 自然は厄介者？

- 風, 波, 川の流れ, 潮汐による潮位の変化や潮流... それらは日常の練習にとっても厄介な存在かもしれません. そして時として生命をおびやかすリスクもある.
- 「...人工の屋根, エアコン付きコースがほしい...」?
ここそが発想の分岐点です.
- 自然を危険な, 不快な存在として拒絶し, 安穩としたぬるま湯の中で, 自分の潜在能力を発揮しないまま, それを萎えさせていくのか.
- それとも, 自然を受け入れ, 理解しようとしながら, その中でリスクと正面から向き合い, 自分を高めていくのか?